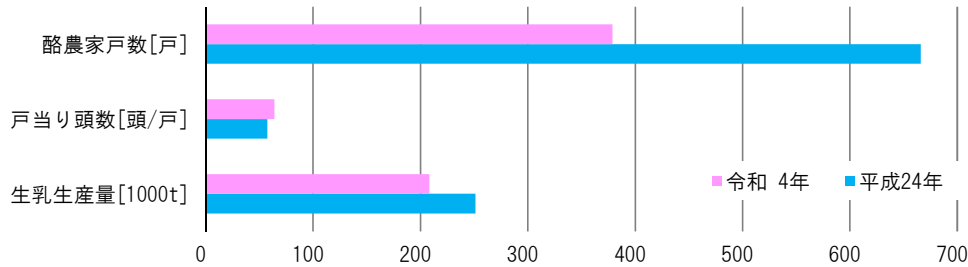


浅间家畜育成牧場研修施設等建替工事



群馬の酪農の昔と今

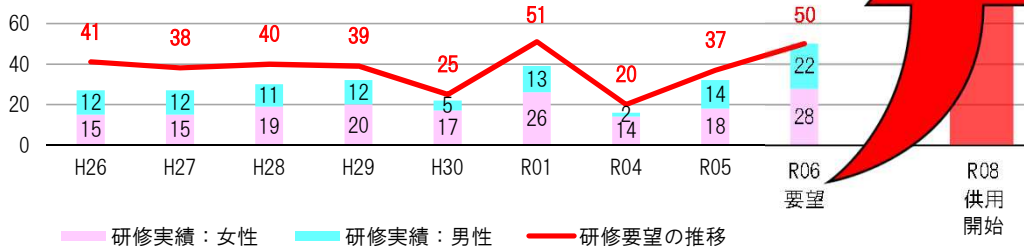
酪農家は減少しているものの、酪農家1戸あたりの飼養頭数は増えていることから、全国4位の生乳生産量を維持している。



研修実績の推移と今後の展開

今までは、主に学生向けの夏期研修を実施。施設の観点から、希望者の8割程度の受入に止まっている。

新施設には、年間を通じた研修計画による柔軟な運営が行えることで、人材育成の間口が大幅に広がることを期待している。



将来の酪農に向けて



戦略的に次世代に向けて投資することで、見えにくい経験論をデジタルの力で可視化し、酪農分野の「始動人」を輩出していく。

既存施設

投資

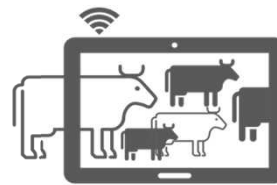
牛のウェアラブルデバイスの導入

DX

県産木材と太陽光発電を積極利用

ZEB

年間**34**研修、**416**人を育成する研修計画



群馬の酪農の発展

スマート農業の普及

魅力ある研修の展開



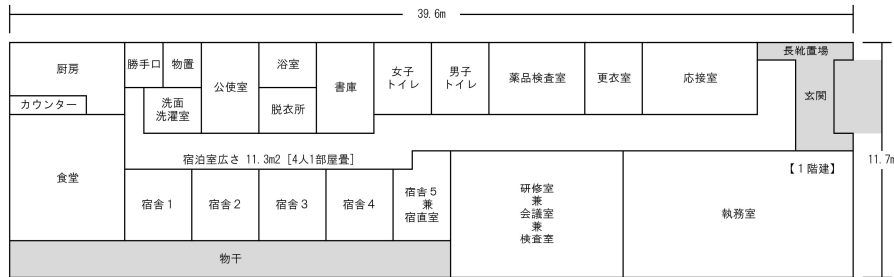
県内関連機関へ就職



浅間家畜育成牧場研修施設等建替工事



研修施設の現状



新しい研修施設のイメージ



将来を見据えた投資



研修室



浴室

性別入替時の札

1室を男女共同利用するため時間要する



宿泊室

7畳に4人が寝泊まりする狭小な間取り



研修室

研修、会議、検査で兼用利用している



執務室

厚生労働省の基準を下回る手狭な室内



宿泊室

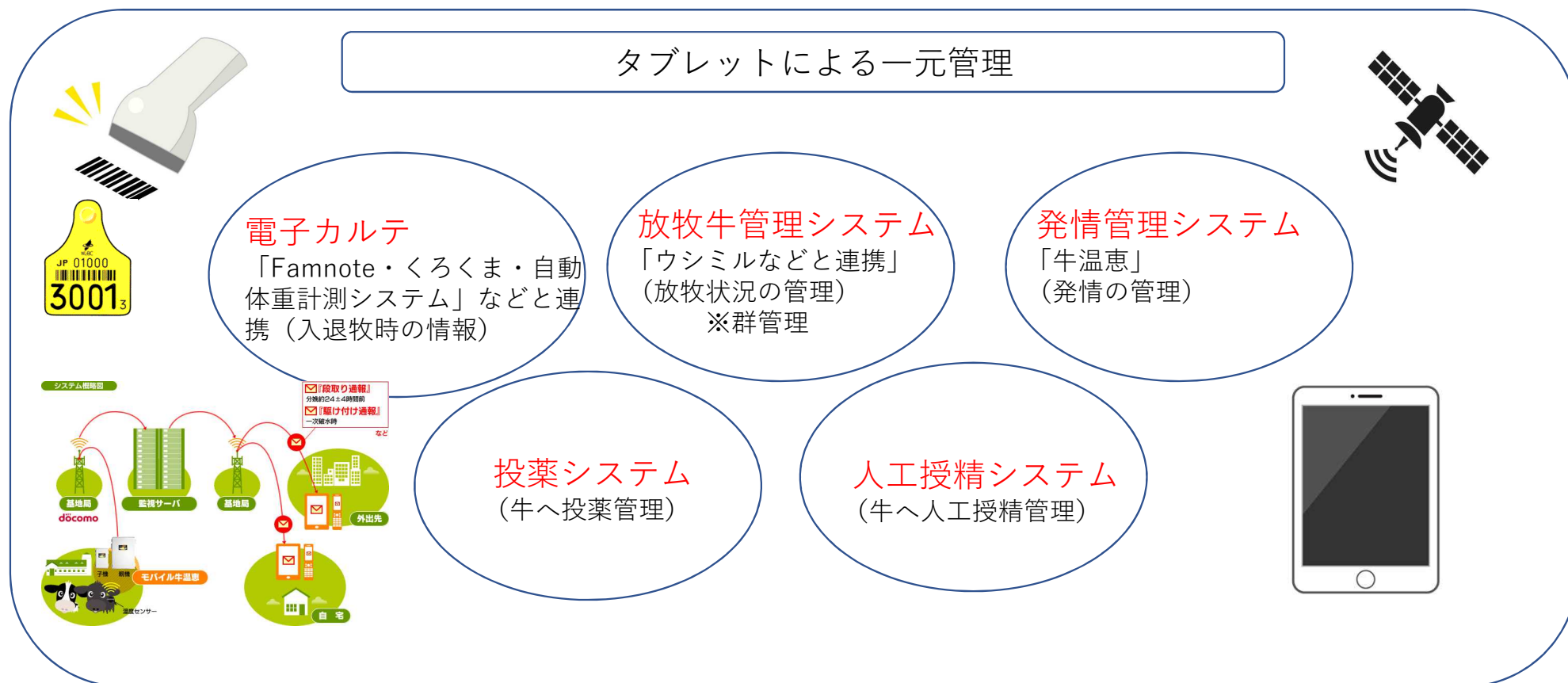


浴室

※写真はイメージ

新・ぐんまDX加速化プログラム DX (浅間牧場 電子カルテ化) (仮)

浅間家畜育成牧場は酪農基盤整備事業により、令和7年度より、預託頭数が600頭になることを踏まえ、IOT・ICT等の利用により、**預託牛の健康状態をモニタリングするシステム**や必要となる情報を一元的に閲覧できる電子カルテを構築・運用し、一元的な管理を実施する。



浅間家畜育成牧場研修施設等建替工事



職員公舎の現状と課題

公舎と事務所の位置関係



公舎から事務所まで
200~500m。
公舎は傾斜地に棚田の
ように造成されている。

浅間家畜育成牧場では、令和6年から毎月の受託牛40頭の入退牧により最大600頭を飼養することで、酪農家を支援している。

受託牛の管理には、年間を通して24時間体制の看視と、緊急時の即応体制が求められることから、**職員公舎は必要不可欠**である。

現在、公舎は19棟あり、昭和46から平成11年に建築され、**全ての職員公舎**において建物の**耐用年数22年を経過**している。

冬季は**最高気温マイナス10度**、**最低気温マイナス15度**、積雪50cmになり、**厳しい環境条件であるが、建物の気密性や断熱性は低い。**

また、**台所は昼間でも暗く**、**洗面所の給水は水のみ**、冬季は凍結防止のため、水を流しっぱなしにしている。

職員公舎の整備計画

- ・正職員数を考慮して**16棟整備**する。
- ・既存公舎を解体し、現在地付近に新築する。
- ・今回設計を標準設計として活用、年間2棟を整備し、8年間で完了することを目標としている。

職員公舎の現在の状況

全景1



全景2



居間・寝室



台所



洗面所



浴室

